

順位	氏名（議席）	発言の要旨
7	藤田 哲哉（27）	1. 専門職の職員のキャリア形成支援と人材確保に向けた任用制度の見直しについて 富士市は令和6年度に富士市土木技術職員人材育成計画（以下、人材育成計画という。）を策定し、その中で未経験者への育成支援や明確なキャリアラダーを示し、専門職の人材確保・定着に向けた先進的な取組が進められており、対象の職員が将来に夢と目標を持ち、安心して働き続けられる環境を整えられたことは大変すばらしい取組であり、高く評価するものです。 一方で、市民の命と健康を夜昼問わず守る看護師や保健師、あるいは文化財等の保護・研究を担う学芸員などに目を向けると、キャリア形成においては、依然として昇進の頭打ちが現実であり、ライフステージや適性の変化に応じた一般事務職へのキャリアチェンジに挑戦する際には、採用試験を再度受け直さなければならないというハードルが存在しています。既に市職員として長年勤務し、現場の課題や行政組織を熟知しているにもかかわらず、新規採用と同等の試験を課すことは非常に高い障壁と言えます。 人材育成計画で示された先進的なキャリアパスの考え方を、看護師や学芸員等の他の専門職へも拡大し、一般事務職への柔軟な転換ルートと専門性を生かした最高職位への昇進ルートの双方を提示することこそが、本市全体の専門職の人材確保とモチベーション向上に不可欠であると考えます。 そこで、以下の2点について伺います。 (1) 看護師や保健師、学芸員などの専門職から一般事務職への職種変更を希望するに当たり、再試験の負担を軽減するため、試験の免除や優先的な任用措置等の制度見直しについて、どのように捉えているか伺います。 (2) 専門職においても、最高職位へ至る昇進ルートの明確化や多様なキャリアパスの整備を進める考えについて伺います。 2. 広見公園のバリアフリー園路整備の進捗について 広見公園は、昭和41年の合併記念公園であり、富士山かぐや姫ミュージアムや移築建造物群、バラ園などを擁する本市の歴史・文化・観光の核心的拠点です。しかし、地形の起伏が激しいため、園路については現在の都市公園移動等円滑化基準に適合しない急勾配等が残されております。このバリアフリー化については、平成27年11月定例会での一般質問において、第五次富士市総合計画後期基本計画で事業化できるよう努めると説明されておりました。 ところが、その後世界中を襲った新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、多くの公共事業が休止や先送りを余儀なくされました。その結果、必要なバリアフリー整備の手が止まったまま時が経過し、第六次富士市総合計画後期基本計画を策定している令和8年度現在も、抜本的な園路改善が進んでいない現状があります。 そうした中、本年度予算においては、本市の貴重な近代建築遺産である洋館、旧順天堂田中歯科医院を広見公園内へ移築復原する事業が進められています。歴史的価値の高い洋館の移築は、広見公園の新たな魅力を創出するすばらしい取組です。しかし、せっかく移築を進めても、身体障害者用駐車場や博物館、バラ園からその洋館へ至る園路が、車椅子やベビーカー、足腰の弱いお年寄りにとって周遊しにくい状況のままであれば、その事業効果は半減してしまいます。新たな施設を呼び込む今だからこそ、誰もが安全・快適に巡ることができるバリアフリー園路の整備が不可欠です。

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨
7	藤田 哲哉（２７）	そこで、以下の２点について伺います。 (1) コロナ禍による事業や財政への影響を経て、第六次富士市総合計画後期基本計画がスタートしようとしている今、広見公園のバリアフリー園路整備の遅れをどう認識し、今後どのように取り組むのか伺います。 (2) 本年度進められている旧順天堂田中歯科医院の移築復原事業に合わせ、移築後の施設から博物館や既存施設へ結ぶバリアフリー園路の優先的な整備を行う考えはあるか伺います。